

## SOS ニュース

### 夫婦円満 — 夫源病にご注意 —

家庭の相談は、家庭を中心にして起こる様々な問題を広く扱っています。ですから職場の問題であったり、学校の問題であったり、育児や児童相談から、老後の問題まで様々です。最初にお電話をいただいて相談者の相談意図が明確でない場合や、いろいろな相談が複層している場合など、まずお話を聞かせていただいて家庭相談から家の売却や相続の話になって、不動産、税務の専門家にスイッチしたり、その中で夜も眠れない等と一言こぼすのを聞けば、心理相談をお勧めする事になります。

さて、その中で相談が多いのは離婚にまつわる相談で、家庭相談の中でも3割強を占めます。原因は浮気や経済的理由や実家とのトラブル等様々で、20歳から30歳代の若い方は安易に離婚を考える傾向が強いように思います。子供達が犠牲になる話や生活苦になるリスク等、出来るだけ離婚を思いとどまる方向で話を進めますが、現実的な所へ目を向けて考え直すケースも少なくありません。

夫婦間の問題で最近「夫源病」という言葉を耳にします。ここからは埼玉新聞の記事からの引用です。『これは、定年退職した夫が毎日家にいるようになって、イライラや落ち込みが増えたり、夫の足音を聞くと動悸がしたりと夫がストレスの原因となって心身に不調が出るものを言います。名づけ親は大阪大准教授の石橋文信氏（循環器内科）で、石橋さんによると、夫源病とは文字通り、夫への不満や夫の存在そのものが強いストレスとなって耳鳴り、めまい、頭痛、不眠などの更年期の様な症状が妻に現れる状態を指す。50代以上の女性が多いが近年は30～40代も増えているという。「夫源病になる妻にも、夫にも、夫々共通点がある」と石橋さんは言う。「妻は経済的自立度が低く、几帳面な人で、周囲に気配りする良妻賢母タイプ」、「夫は外面が良く、職場では指導的な立場にある人」が多いという。処方箋は「口げんかをする」こと。「手が出るのは論外ですが、口げんかは立派なコミュニケーション。日頃から本音をぶつけられる妻は夫源病にはならない」と言う事です。』

離婚を含めて夫婦間の問題について高齢化が進むに従い、50代、60代での相談も増えてきました。新聞記事の「夫源病」のようにストレスが原因となってこれから迎える老後をお互いに不愉快な思いで過ごしていくのは何とも寂しいかぎりです。夫婦円満の家庭は企業の発展にも社会の安定にもつながるものですので、これは何とかしたいものです。

会社では尊敬される仕事人間が定年を迎えた途端、妻から離婚届けを突きつけられた等という話もあるぐらいですが、我慢に我慢を重ねて家庭を守ってきた妻の気持ちを思えば気の毒でもあり、又いささか恐ろしくもあります。

家庭の崩壊という事が言われていますが夫婦円満は基本です。しかし、それは急に出来るものではありませんし、何もしないで出来るものでもありません。お互いに努力をして楽しい家庭、良い夫婦関係を作っていく、当事者同士の努力のみならず企業もワークライフバランス等の後押しをもう一步進めて、夫婦円満の秘訣をうたった研修、講演等の啓蒙も必要かもしれません。

(参考 埼玉新聞 H28.3.21)

家庭・教育部会 産業カウンセラー 青木洋二